

総合実習 (グループで行う問題解決)

情報の科学 第42回授業

10総合実習

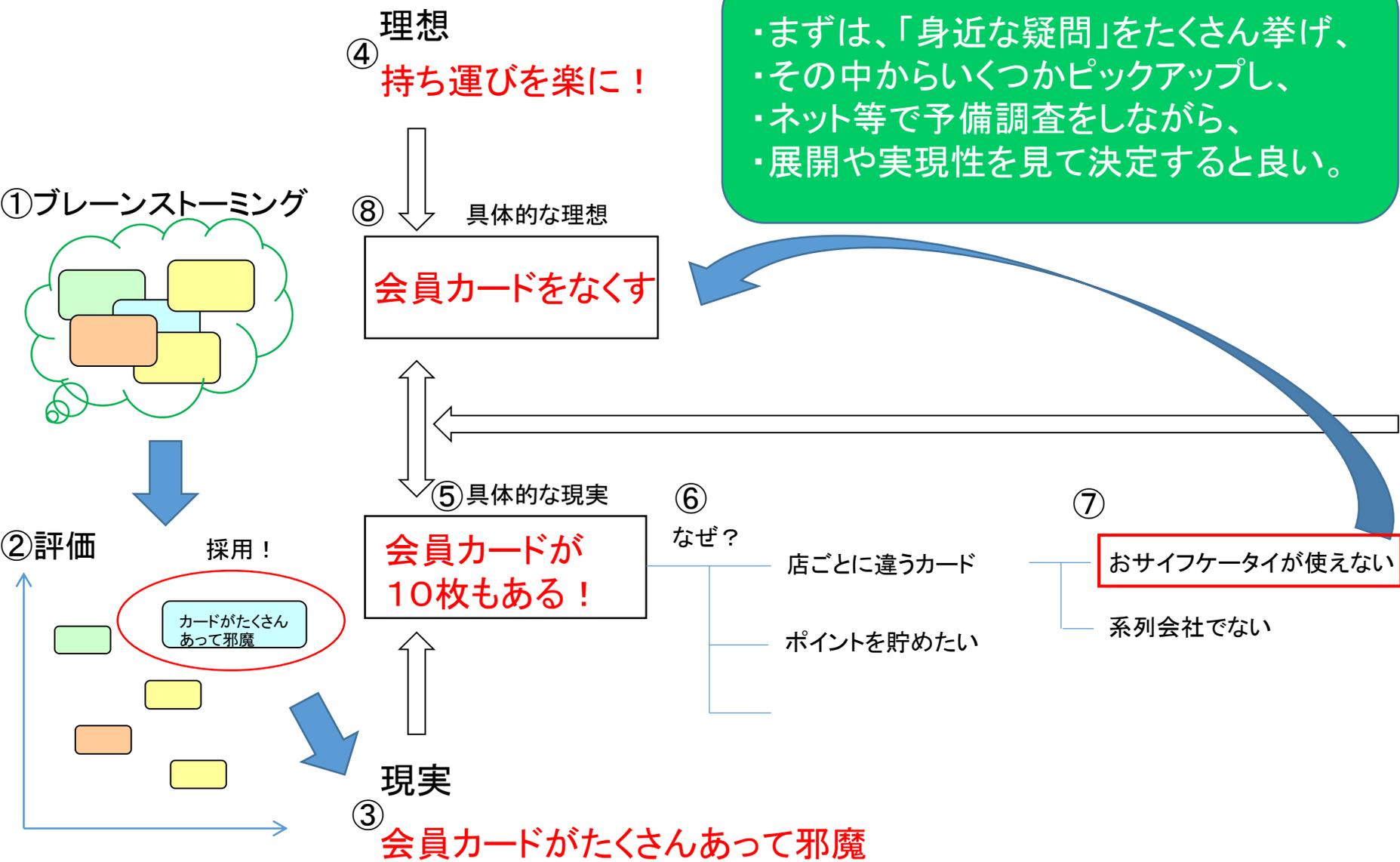
対応ファイル: 16exp41.xls (前回)

問題の発見とテーマ決め

- メインテーマ
「情報科学や情報技術を社会に役立てる」
- 問題を発見し、その問題（理想と現実とのギャップ）を、情報科学・技術を用いて解決（提案）することが「目的」
 - 例：「財布にかさばる会員カードを情報技術で無くし、財布の厚みを小さくする」
- 理想を具体化した時、それに関連する内容が「テーマ」
 - 例：「カードレスな世界をあなたに」

問題の発見と明確化（現実→理想）：**お勧め**

・まずは、「身近な疑問」をたくさん挙げ、
・その中からいくつかピックアップし、
・ネット等で予備調査をしながら、
・展開や実現性を見て決定すると良い。



問題の発見と明確化（理想→現実）：参考

理想 ①あるべき姿を考える
高齢化を克服する

②具体的な姿をブレインストーミング

③評価



④具体的な理想

病院に通いやすく

⑦どうすれば？

付き添いのシステムをつくる

ボランティアのしくみ

保険の活用



⑤現実はその逆
具体的な現実

病院に通いにくい

⑥なぜ？（予備調査）

交通機関がバリアフリーでない

介護する人がいない

体力が落ちている

採用！

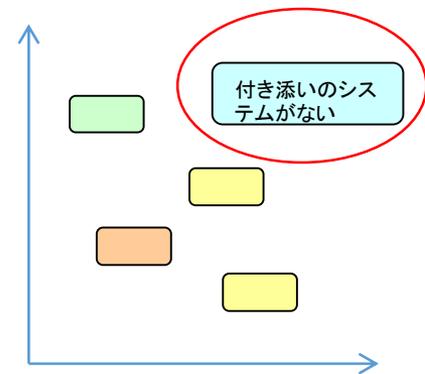
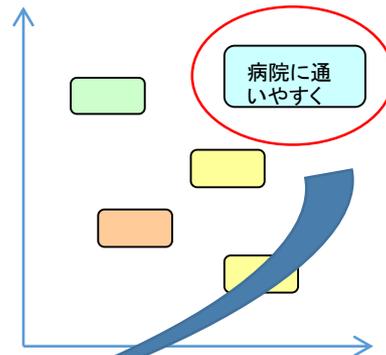
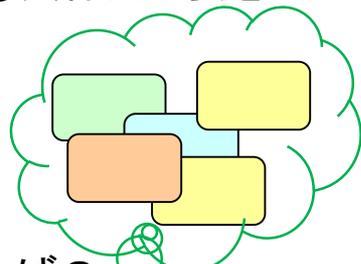
付き添いのシステムがない

家族が遠くに住んでるから

現実

少子高齢化が顕著

問題が大きくなりがちで、解決（提案）が非常に難しくなるので、あまりお勧めはしません。
（どうしてもやりたいのであれば、止めません）



よい「提案」にするには

- 具体的な提案を！

- 着目箇所と解決方法も含めて具体的に

- 良くない例:「〇〇が解決できれば良い」

- 良い例:「△△を■ ■のように用いれば、〇〇を解決できるのではないか」

- 根拠の重要性

- 「なぜ」それが有効であるのかを、客観的かつ明確に

- 例:自分たちで試してみた結果、〇〇であった

- 例:アンケート調査をしてみた結果、〇〇であった

- 例:現場の方々にインタビューした結果、〇〇であった

- 「オリジナリティ」を意識

- 根拠とともに、自分たち独自の視点や提案を！

- 「他力本願」ではなく、自分たち自身が主体的に！

計画表について

- サンプル(道具箱にあります)をよく見て具体的に
 - 13時間で完成するように作ってください。
- 実習3時間目くらいまでに提出する
 - 期限は設けないが、早めに出さないと時間がなくなる
 - ある程度で決断を
- そのままプリンタで印刷をし、提出する
- 必ず計画表を提出してから実行
 - 計画なしに実行すると迷走します。
- 大きな変更(サブテーマ変更等)があれば再提出
 - 小さな変更(スケジュールがずれた等)では再提出不要
- 外部での調査を行う場合は、必ず事前に相談する

校外調査の流れ

※「提示」にある依頼サンプル等も参考にすること

1 先生に概要の説明と相談



OKがでたら

2 先方との約束

※必ず約束をしてからインタビュー等を行うこと
「～が知りたいのですが、どのようにしたらよろしいでしょうか」と
先方にお伺いすると良い。



日時・場所等が決定後

3 「校外調査企画書」の提出

※「提示」の中にあるPDFの用紙を印刷し、手書きして提出



依頼状作成に数日かかるので早めに提出

4 学校からの「依頼状」を持参し訪問

※5分前くらいに到着するようにする。失礼のないように！



訪問後

5 「お礼状」または「お礼のメール」等の送信

※訪問終了後早めに送る。できれば作成資料も添付すると良い。

校外調査企画時の注意

- 「何のために」調査を行うのですか？
 - 目的を明確化しないと得られるものがぼやけます。
 - 例1) 改善策の確認
 - 自分たちのアイデアが実際の方々に受け入れられるか知る
 - 例2) より詳細な現状把握
 - Webサイトだけではわからない、実際の方々の意見を知る
- その調査で必要な情報が得られますか？
 - そこで働いている方だからといって、すべての内容を100%知っているわけではありません。
 - 例) 自動車販売店に「未来の自動車」を聞く
 - 販売店は「車を売る所」であって、未来の自動車を考える所ではありません。販売店で得られるであろう情報を考えよう。

詳細は…

- 「道具箱」の中にありますので、

必ず目を通して

おいてください！